平成　24　年度

1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0472400324		
法人名	社会福祉法人　日就会		
事業所名	グループホーム　悠里の郷　　（ユニット名　さくら）		
所在地	宮城県亘理郡亘理町吉田字宮前１２－１		
自己評価作成日	平成　２４　年　１０　月２４　日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://yell.hello-net.info/kouhyou/

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	NPO法人　介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡４－２－８　テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成24年11月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

・当ホームでは月１回の専門医（精神科）の回診があります。また週1回訪問歯科があり、歯科衛生士による口腔クリーニングや、Drによる歯科検診、入居者様の健康管理を毎日行っている。毎月モニタリング評価会議を実施し、入居者様一人ひとりのケアの見直しを行い、生活援助計画へと繋げている。又月１回会議を開き、研修報告や行事計画などを共有している。当ホームの内部は床暖房設備になっており、居室も十分な広さが確保されている。外部にはウッドデッキがあり、庭が広く畑もあり住みやすい環境が整っている。同法人が近隣にある為、いつでも協力体制がとれる状態である。月１回セブンイレブンの移動売店があり、入居者様は買い物を楽しまれている。当ホームがある亘理町は温暖な気候と水、空気、食べ物がとても美味しく大変住みやすい町である。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

基本理念を受けて作成した介護理念１０項目を基に、毎月の全体会議の中で自分の1ヵ月のケアを振り返って自己評価を行っている。一人ひとりの入居者の介護のテーマを決めて、全職員がそれに対する取り組み結果を書き込んで、評価してケアプランに反映している。地域との交流も、運営推進会議や避難訓練を通して、活発に交流しており、夏祭りや芋煮会等の実施は、入居者の生き甲斐へと結びついている。居室も広くゆったりとしており、誕生日の度に送られる御祝いの色紙と「長寿の手」と題した自分の手形の色紙は、入居者への励ましとなっている。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名　グループホーム　悠里の郷　　)「ユニット名　さくら　」

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	GHの理念一覧を全てのスタッフに配布している。又、基本理念を玄関や事務所に提示してスタッフの統一を図り、内部研修会でも確認している。	基本理念を基に、10項目からなる介護理念を作成している。理念は事業開始時からのもので現在の職員で作成に携わった者はいない。今年度から全体会議を毎月実施することとし、理念に添ったｹｱの確認を行っている。	介護理念の10項目を、更に日々のｹｱに添ったより具体的な項目に掘り下げて、全体会議での自己評価が容易に出来る評価様式を作成し、ケアの質向上に取り組んで頂きたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りや芋煮会等の行事を通し、近隣の住民や児童館、老人会等と地域の一員として交流している	ﾕﾆｯﾄ間はｳｯﾄﾞﾃﾞｯｷで結ばれており、地域の人も参加する夏祭りや芋煮会等で活用している。ｸﾞﾙｰﾌﾟﾎｰﾑの周りには、春と秋に農業改善ｸﾗﾌﾞ婦人部の皆さんによる季節に合った花の植え付けが行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	研修等で学ぶ機会はあるがまだまだ地域の人々に向けて活かせていないのが現状である		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、施設長や区長、民生委員、役場福祉課、家族代表の方々と会議を行い、その意見をサービス向上へと活かしている	会議は、入居者家族、地元、市町村からの参加で年6回実施している。家族代表からﾋﾔﾘﾊｯﾄの発生状況の報告を求められ、8、9月の発生6件の内訳を報告している。11月からﾋﾔﾘﾊｯﾄは全て事故として管理される。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にて情報交換の場をもうける等協力関係を築いている	社会福祉協議会からの問い合わせに対する対応や運営推進会議に参加した際に、色々と相談している。ｸﾞﾙｰﾌﾟﾎｰﾑで作付けしている野菜類への放射能の影響等についても町が把握したﾃﾞｰﾀで判断して貰っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束について正しく理解しており、玄関の施錠を含め身体拘束を行っていない	県が計画する実践者研修に、毎年2名参加している。介護理念にも身体的、精神的拘束の禁止をうたって全職員が実践している。ﾍﾞｯﾄﾞには柵を設置しないで、転落の心配のある場合には布団を使用している。日中は施錠しないで、見守りに徹している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修を受け、内部研修や研修報告会などで報告し、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等にて成年後見制度について学ぶ機会があり活用できる環境にもあり、まもりーぶを利用されている方が1名いる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関するものは必ず家族が理解、納得されるまで十分な説明を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置しており、入居者、家族がいつでも意見・要望を表わせるような環境を整えている	家族による通院の度に状況報告や薬の引渡しが行われ、その際に色々な要望も出る。家族と暮らしていた当時の日常を失わないようにと、洗濯物やｺﾞﾐ捨て、縫い物を担当している人や家族の要望で毎日入浴の人もいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者・管理者はいつでも職員の意見や提案を聞ける体制にある	毎週、特養が主催するｾｸｼｮﾝ会議に代表者が参加し、ｸﾞﾙｰﾌﾟﾎｰﾑの取り組み状況や課題等の報告をしている。それが法人に対する提案の場となっている。ﾎｰﾑ内の問題等は毎月の全体会議が提案の場となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員個々の実績、勤務状況等を把握し、職員の配置を行う等、仕事への意欲向上へとつなげている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度より、人事考課制度を取り入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内での交流の他、宮城県グループホーム協議会に参加しており、研修会や懇談会に積極的に参加し、同業者との交流の機会を作っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様の不安や要望を聞く機会を作り、それを受け入れ個別対応する事により、本人の安心と信頼関係に繋げるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入時は、入居者様と共に御家族様からの相談や心配事などをお伺いすると同時に、随時電話連絡や面会時などに話す機会を設け、御家族様の安心へと繋げていけるよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、御家族様等の希望に応じ、支援すべき事を見極め対応している。面接調査はなるべく本人の自宅にお伺いして、生活の様子を知るようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事全般、食事等行動を共にし、利用者様と一緒に過ごし、共有するよう心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話連絡や面会時等に十分な情報交換を行う等接する時間をもうけ、信頼関係が築けるよう努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御本人の馴染みの場所へドライブなど、関係が途切れないよう努めている	移動理容所が2ヵ月毎に来所し、毎回16、7名が利用し、楽しみの一つとなっている。大震災で自宅やかって通っていたﾃﾞｲｻｰﾋﾞｽを失った人もおり、ﾄﾞﾗｲﾌﾞに出た際にそこを見たいとの要望が出て行くこともある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係を把握し食席や生活リハビリ等を配慮し良好な関係が築けるよう支援している		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した方でも必要に応じ近況報告や相談等を行っている		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向を把握し支援できるよう努めている。すべての希望を聞くのは困難であるが出来る限り意向に沿うよう支援している	毎日のｽｹｼﾞｭｰﾙの一つに、「今日のﾆｭｰｽ」の時間がある。職員が新聞記事の中から、これはと思うのを読んで、話題にしてああだ、こうだ、と話し合う、そんな中からも入居者の色々な思いをうかがい知ることが出来る。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の実態調査時に生活環境等を伺い、職員間で共有しこれまでの生活歴を把握した上で入居後の生活へとつながるよう支援している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様一人ひとりの状態を把握し、個別に応じた環境で生活できるよう支援している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	検討用紙を作成し、全職員の意見やご本人、御家族様の意見を反映させ毎月担当者とモニタリング会議にて話し合いを行っている。	入居者毎のﾃｰﾏを決め、1ヵ月毎に全職員が振り返り「ﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞ反映事項」に書き込みそれを月一回のﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞ会議の資料としてｹｱﾌﾟﾗﾝに反映している。ﾃｰﾏはﾎｰﾑの生活を楽しむ、ﾘﾊﾋﾞﾘへの参加、健康管理である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子を記録し、課題や気づきがあった場合、その都度申し送りや解決に向けて話し合いを行っている。又、申し送りノートを活用し情報の共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御本人、御家族様等の状況に応じ柔軟に対応できるよう努めている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源は把握できているが、それを積極的に活用できていないのが現状である		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御本人、御家族様等の希望の医療機関を利用して頂いている。必要に応じ職員からかかりつけ医と情報提供を行っている	協力医の往診が月１回ある。主治医への通院は主として家族が対応しており、その際ﾎｰﾑとしては日々のﾊﾞｲﾀﾙ記録の写しを提供している。要望がある場合には、職員が通院に同行しその結果を家族へ報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム内に現在看護師は勤務していないが、入居者様の異変時には同法人の特別養護老人ホームの看護師に連絡し、適切な看護を行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には利用者様の介護情報提供している。早期退院に向け医療機関と情報交換を行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化については、家族の希望を受けているが、終末期に向けては、看護師がいない為十分なケアが出来ないと感じている。	以前は医療連携体制加算を得ていたが、看護師の退職により今年度は加算はとってない。重度化や終末期に向けた対応としては、重要事項説明書により説明している。重度化の入居者が5月と9月に1名ずつ同法人の特別養護老人ﾎｰﾑへ入所している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員消防署にて救急救命講習を受講しており、実践力を身につけている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を行っており、その内１回は地域の区長様や婦人防火クラブ、ボランティア様に参加して頂き協力体制を築いている。	避難訓練には地域の婦人防火ｸﾗﾌﾞ等の参加もあり、地域の協力が得られている。６月に実施した夜間想定では、ﾕﾆｯﾄ間の連携がﾃｰﾏで、火災発生ﾕﾆｯﾄからの連絡で、非常連絡網での緊急呼び出しを検証している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	特に入浴や、トイレ介助など、入居者様一人ひとりに合わせた言葉掛けを行い、個人情報の厳守とプライバシーを配慮し支援している	人格尊重とﾌﾟﾗｲﾊﾞｼｰの確保のためのｹｱのあり方のﾎﾟｲﾝﾄは何か、を意識して取り組んでいる。毎月の全体会議で、企業理念10項目を基に、入居者一人ひとりに対するｹｱを振り返り自己評価している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様一人ひとりが思いや希望を表わしたり自己決定できるよう支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の生活ペースを守り、その人らしさを優先、希望に沿って支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様の個性に応じた髪型や身だしなみの支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	準備の際は入居者様にテーブル拭き等や食器洗い、食器拭きなど手伝って頂き、行事や誕生会などでは入居者様が食べたい物を取り入れ食事が楽しめるよう工夫している。	食事の準備に参加する喜びを感じている人や、食事介助を受けて、1時間もの時間を掛けてゆっくりと楽しむ人もいる。誕生日には好きなﾒﾆｭｰを注文出来るので、海苔巻きを頼み自分で巻いて皆に振舞った人もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同法人の栄養士と相談しメニューを作成している。また、好みや体重管理等、一人ひとりの状態に合わせた支援を行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立している方には毎食後声掛けを行い、支援を要する方には職員が口腔ケアの支援を行い清潔保持へとつなげている。希望者には週に1回歯科衛生士にて口腔クリーニング行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を記入、活用し一人ひとりの排泄パターンの把握に努め支援している	排泄に関するｹｱは、入居者のﾌﾟﾗｲﾄﾞに関わる最も気を使うべき事であるとの認識から、一人ひとりの状況把握に力を入れている。夜間は一時間毎の見回りを実施しているが、睡眠状況を確認して安眠にも配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日便秘予防の為牛乳・ヤクルト・ヨーグルト等を摂取して頂いている。また、必要に応じ下剤を使用し対応している。毎日、リハビリ体操を行ったり、散歩など軽い運動を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者様一人ひとりの希望に合わせて、午前、午後の対応を行っている。毎日入浴を希望される方もおり、毎日対応している。	入居者が求める入浴の仕方には、基本的に応えることとして色々と入浴のｽｹｼﾞｭｰﾙを調整している。中には、1時間半も掛けてゆっくりと入りたい人もおり、時間調整に苦労しながらも要求に応えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜の睡眠時間を個別の記録へと反映させ、睡眠パターンを把握している。希望する方には湯たんぽを使用している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は入居者様一人ひとりの服薬の効果、薬の副作用ともに理解しており、常時症状との変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の生活歴を把握し、役割や楽しみへとつながるよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に散歩など気軽に出掛けられる環境にある。希望者によりさくらんぼ狩り、お花見ドライブ、ショッピングなどに出掛けている。	ﾎｰﾑの近辺の散歩や季節に応じた名所等への計画的なﾄﾞﾗｲﾌﾞを実施している。時には隣県へのさくらんぼ狩りも実施している。入居者同士の話の中で、ﾗｰﾒﾝが食べたいね、等の話しが出て急に外出計画に追加となることもある。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族様了解のもと、金銭管理については、お小遣い程度の金銭を金庫にて預かりしているが、希望する方には金銭を所持して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望時にはいつでも電話を使用できる体制にあり、年賀状や手紙のやりとりも支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの飾りつけ等で心地よく過ごせるよう配慮している。また入居者様に不快感を与えないようテレビの音やカーテン等の配慮を行っている	壁には、行事の度のｽﾅｯﾌﾟ写真や合同製作の桜紙を加工した干支の「辰」も飾ってあり、賑やかな装いとなっている。ゆったりとした食堂は二組のﾃｰﾌﾞﾙに分かれており、好みの場所で食事を楽しんでいる。食器片付けを自分の役割として楽しんでいる人もいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂やフロア、談話ソファ、和室の掘りこたつなど、環境を整え一人ひとり自由に過ごせる共有空間を確保している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れ親しんだ家具を持ち込んでもらい、今まで生活してきた暮らしに近づけるよう工夫している。	広くゆったりとした居室には、家族の写真や懐かしい家具を置いている入居者が多い。毎年の誕生日には、御祝いの色紙が贈られ壁一杯に飾っている人もいる。「長寿の手」と題した自分の手形の色紙を全員飾っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様一人ひとりに出来る事を見つけ出し、引き出しながら自立支援へと繋げている。居室には出来る限り混乱を招かないよう表札を設置している。		

平成　24　年度

1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0472400324		
法人名	社会福祉法人　日就会		
事業所名	グループホーム　悠里の郷　　（ ユニット名　はぎ）		
所在地	宮城県亘理郡亘理町吉田字宮前12－1		
自己評価作成日	平成　24　年　10　月　24　日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://yell.hello-net.info/kouhyou/

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	NPO法人　介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4－2－8　テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成24年11月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

・当ホームでは月一回の専門医（精神科）の回診があります。また週1回訪問歯科があり、歯科衛生士による口腔クリーニングや、Drによる歯科検診、入居者様の健康管理を毎日行っている。毎月モニタリング評価会議を実施し、入居者様一人ひとりのケアの見直しを行い、生活援助計画へと繋げている。又月1回会議を開き、研修報告や行事計画などを共有している。当ホームの内部は床暖房設備になっており、居室も十分な広さが確保されている。外部にはウッドデッキがあり、庭が広く畑もあり住み易い環境が整っている。同法人が近隣にあるため、いつでも協力体制がとれる状態である。月に1回セブンイレブンの移動売店があり、入居者様は買い物を楽しまれたいる。当ホームがある亘理町は温暖な気候と水・空気・食べ物がとても美味しく大変住みやすい町である

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

基本理念を受けて作成した介護理念10項目を基に、毎月の全体会議の中で自分の1ヵ月のケアを振り返って自己評価を行っている。一人ひとりの入居者の介護のテーマを決めて、全職員がそれに対する取り組み結果を書き込んで、評価してケアプランに反映している。地域との交流も、運営推進会議や避難訓練を通して、活発に交流しており、夏祭りや芋煮会等の実施は、入居者の生き甲斐へと結びついている。居室も広くゆったりとしており、誕生日の度に送られる御祝いの色紙と「長寿の手」と題した自分の手形の色紙は、入居者への励ましとなっている。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名　グループホーム　悠里の郷　)「ユニット名　　はぎ　　」

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	内部研修等により「のんびり　共に　笑顔で楽しく」という理念を全職員が共有し実践へとつなげている	基本理念を基に、10項目からなる介護理念を作成している。理念は事業開始時からのもので現在の職員で作成に携わった者はいない。今年度から全体会議を毎月実施することとし、理念に添ったｹｱの確認を行っている。	介護理念の10項目を、更に日々のｹｱに添ったより具体的な項目に掘り下げて、全体会議での自己評価が容易に出来る評価様式を作成し、ケアの質向上に取り組んで頂きたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭り等の行事等を通し近隣の住民や児童館、老人会等と地域の一員として交流している	ﾕﾆｯﾄ間はｳｯﾄﾞﾃﾞｯｷで結ばれており、地域の人も参加する夏祭りや芋煮会等で活用している。ｸﾞﾙｰﾌﾟﾎｰﾑの周りには、春と秋に農業改善ｸﾗﾌﾞ婦人部の皆さんによる季節に合った花の植え付けが行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	研修等で学ぶ機会はあるがまだまだ地域の人々に向けて活かせていないのが現状である		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、施設長や区長、民生委員、役場福祉課、家族代表の方々と会議を行い、その意見をサービス向上へと活かしている	会議は、入居者家族、地元、市町村からの参加で年6回実施している。家族代表からﾋﾔﾘﾊｯﾄの発生状況の報告を求められ、8、9月の発生6件の内訳を報告している。11月からﾋﾔﾘﾊｯﾄは全て事故として管理される。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にて情報交換の場をもうける等協力関係を築いている	社会福祉協議会からの問い合わせに対する対応や運営推進会議に参加した際に、色々と相談している。ｸﾞﾙｰﾌﾟﾎｰﾑで作付けしている野菜類への放射能の影響等についても町が把握したﾃﾞｰﾀで判断して貰っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束について正しく理解しており、玄関の施錠を含め身体拘束を行っていない	県が計画する実践者研修に、毎年2名参加している。介護理念にも身体的、精神的拘束の禁止をうたって全職員が実践している。ﾍﾞｯﾄﾞには柵を設置しないで、転落の心配のある場合には布団を使用している。日中は施錠しないで、見守りに徹している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	管理者、ユニットリーダーが虐待について実践者研修等で研修してきた事を研修報告を通し他の職員に説明しながら虐待防止へと努めている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等にて成年後見制度について学ぶ機会があり活用できる環境にあるが、利用されている方はいない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関するものは必ず家族が理解、納得されるまで十分な説明を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置しており、入居者、家族がいつでも意見・要望を表わせるような環境を整えている	家族による通院の度に状況報告や薬の引渡しが行われ、その際に色々な要望も出る。家族と暮らしていた当時の日常を失わないようにと、洗濯物やｺﾞﾐ捨て、縫い物を担当している人や家族の要望で毎日入浴の人もいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者・管理者はいつでも職員の意見や提案を聞ける体制にある	毎週、特養が主催するｾｸｼｮﾝ会議に代表者が参加し、ｸﾞﾙｰﾌﾟﾎｰﾑの取り組み状況や課題等の報告をしている。それが法人に対する提案の場となっている。ﾎｰﾑ内の問題等は毎月の全体会議が提案の場となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員個々の実績、勤務状況等を把握し、職員の配置を行う等、仕事への意欲向上へとつなげている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階に応じた外部での研修や、定期的な内部の勉強会等を行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内での交流の他、宮城県グループホーム協議会に参加しており、研修会等に積極的に参加し、同業者との交流の機会を作っている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入時は在宅の時の物品を持参して頂いている。また、必ず入居者様の話を聞き、本人の安心へとつなげるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入時は入居者とともに必ず御家族様にも話を聞き、安心へとつなげるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、御家族様等の希望に応じ、支援すべき事を見極め対応している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日食事等行動を共にし、入居者様と一緒に過ごし支えあっている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話連絡や面会時等に十分な情報交換を行う等接する時間をもうけ、信頼関係が築けるよう努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	理美容室に送迎する等御本人の馴染みの場所への外出等関係が途切れないよう努めている	移動理容所が2ヵ月毎に来所し、毎回16、7名が利用し、楽しみの一つとなっている。大震災で自宅やかって通っていたﾃﾞｲｻｰﾋﾞｽを失った人もおり、ﾄﾞﾗｲﾌﾞに出た際にそこを見たいとの要望が出て行くこともある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係を把握し食席や生活リハビリ等を配慮し良好な関係が築けるよう支援している		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した方でも必要に応じ近況報告や相談等を行っている		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向を聞いて支援している。すべての希望を聞くのは困難であるが出来る限り意向に沿うよう支援している	毎日のｽｹｼﾞｭｰﾙの一つに、「今日のﾆｭｰｽ」の時間がある。職員が新聞記事の中から、これはと思うのを読んで、話題にしてああだ、こうだ、と話し合う、そんな中からも入居者の色々な思いをうかがい知ることが出来る。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実態調査時にはなるべく本人の自宅に伺い生活環境等を聞き、入居後の生活へとつながるよう支援している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様一人ひとりの状態を把握し、一人ひとりに応じた暮らしができるよう支援している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成時に御本人、御家族様の意向を聞き反映している。また、毎月モニタリング会議にて担当者との話し合いを行っている	入居者毎のﾃｰﾏを決め、1ヵ月毎に全職員が振り返り「ﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞ反映事項」に書き込みそれを月一回のﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞ会議の資料としてｹｱﾌﾟﾗﾝに反映している。ﾃｰﾏはﾎｰﾑの生活を楽しむ、ﾘﾊﾋﾞﾘへの参加、健康管理である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々生活の様子を記録し、気付きがあった場合はその都度話し合い解決へとつなげている。また申し送りノートを活用し情報の共有を行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様が病気や高齢等で通院が困難になった時など、御本人、御家族様等の状況に応じ柔軟に対応できるよう努めている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源は把握できているが、それを積極的に活用できていないのが現状である		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御本人、御家族様等の希望の医療機関を利用して頂いている。必要に応じ通院時はかかりつけ医に情報提供を行っている	協力医の往診が月１回ある。主治医への通院は主として家族が対応しており、その際ﾎｰﾑとしては日々のﾊﾞｲﾀﾙ記録の写しを提供している。要望がある場合には、職員が通院に同行しその結果を家族へ報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム内に現在看護師は勤務していないが、入居者様の異変時には同法人の特別養護老人ホームの看護師に連絡し、適切な看護を行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には利用者様の介護情報、看護師サマリー等医療機関に提供している。早期退院に向け医療機関と情報交換を行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当ホームに看護師がいない為重度化、終末期に向けホームとしてできる限界を御家族様と話合いを行い、方針を共有している	以前は医療連携体制加算を得ていたが、看護師の退職により今年度は加算はとってない。重度化や終末期に向けた対応としては、重要事項説明書により説明している。重度化の入居者が5月と9月に1名ずつ同法人の特別養護老人ﾎｰﾑへ入所している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員消防署にて救急救命講習を受講しており、実践力を身につけている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を行っており、その内１回は地域の区長様や婦人防火クラブ、ボランティア様に参加して頂き協力体制を築いている	避難訓練には地域の婦人防火ｸﾗﾌﾞ等の参加もあり、地域の協力が得られている。６月に実施した夜間想定では、ﾕﾆｯﾄ間の連携がﾃｰﾏで、火災発生ﾕﾆｯﾄからの連絡で、非常連絡網での緊急呼び出しを検証している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人ひとりに合わせた言葉掛けを行い、入浴やトイレへの声掛け等では誇りやプライバシーを損なわないよう配慮し支援している	人格尊重とﾌﾟﾗｲﾊﾞｼｰの確保のためのｹｱのあり方のﾎﾟｲﾝﾄは何か、を意識して取り組んでいる。毎月の全体会議で、企業理念10項目を基に、入居者一人ひとりに対するｹｱを振り返り自己評価している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様一人ひとりが思いや希望を表わしたり自己決定できるよう支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間等ある程度の一日の流れは決まっているが、それ以外は一人ひとりのペース、希望に沿って支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様一人ひとりに合わせたおしゃれができるよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	準備の際は入居者様に野菜の皮むき、盛り付け等を手伝って頂き、また食事も入居者様、職員と一緒に食べる事で食事が楽しみになるよう支援している	食事の準備に参加する喜びを感じている人や、食事介助を受けて、1時間もの時間を掛けてゆっくりと楽しむ人もいる。誕生日には好きなﾒﾆｭｰを注文出来るので、海苔巻きを頼み自分で巻いて皆に振舞った人もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同法人の栄養士と相談しメニューを作成している。また、好みや体重管理等、一人ひとりの状態に合わせた支援を行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立している方には毎食後声掛けを行い、支援を要する方には職員が口腔ケアの支援を行い清潔保持へとつなげている。また、希望者は週1回訪問歯科医の口腔ケアを受けている（現在6名受診）		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を記入、活用し一人ひとりの排泄パターンの把握に努め支援している	排泄に関するｹｱは、入居者のﾌﾟﾗｲﾄﾞに関わる最も気を使うべき事であるとの認識から、一人ひとりの状況把握に力を入れている。夜間は一時間毎の見回りを実施しているが、睡眠状況を確認して安眠にも配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日体操やホーム周辺の散歩を行ったり、便秘予防の為牛乳・ヤクルト・ヨーグルト等を摂取して頂いている。また、必要に応じ下剤を使用し対応している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は2～3日に一回とある程度決まっているが必要に応じ対応している。また、入居者様一人ひとりの希望を優先し入浴支援を行っている	入居者が求める入浴の仕方には、基本的に応えることとして色々と入浴のｽｹｼﾞｭｰﾙを調整している。中には、1時間半も掛けてゆっくりと入りたい人もおり、時間調整に苦労しながらも要求に応えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様一人ひとりの生活のリズムに合わせ支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は入居者一人ひとりの服薬の効果、副作用ともに理解しており、常時症状の変化の確認に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の生活暦を把握し、庭の草取りや裁縫、食器拭き等毎日の役割や楽しみへとつながるよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様の希望により今年はさくらんぼ狩り、お花見ドライブ等戸外に出掛けられるよう支援している。	ﾎｰﾑの近辺の散歩や季節に応じた名所等への計画的なﾄﾞﾗｲﾌﾞを実施している。時には隣県へのさくらんぼ狩りも実施している。入居者同士の話の中で、ﾗｰﾒﾝが食べたいね、等の話しが出て急に外出計画に追加となることもある。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭所持の希望があった場合は御家族様と相談し御家族様の了解のもと所持、使用できるよう対応している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望時にはいつでも電話を使用できる体制にある。また、お正月には手作り年賀ハガキの支援を行っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの飾りつけ等で心地よく過ごせるよう配慮している。また入居者様に不快感を与えないようテレビの音やカーテン等の配慮を行っている	壁には、行事の度のｽﾅｯﾌﾟ写真や合同製作の桜紙を加工した干支の「辰」も飾ってあり、賑やかな装いとなっている。ゆったりとした食堂は二組のﾃｰﾌﾞﾙに分かれており、好みの場所で食事を楽しんでいる。食器片付けを自分の役割として楽しんでいる人もいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂や自室、共用の和室等入居者様一人ひとりが思い思いに過ごせるような場所を提供している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に入居者様一人ひとりの馴染みのものを持参して頂き、本人が居心地良く過ごせるよう支援している	広くゆったりとした居室には、家族の写真や懐かしい家具を置いている入居者が多い。毎年の誕生日には、御祝いの色紙が贈られ壁一杯に飾っている人もいる。「長寿の手」と題した自分の手形の色紙を全員飾っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、居室には表札を設置し、出来る限り混乱を招かないよう配慮している		